



2016年 冬号

URL : <http://www.karashi.net/>

日本人の心の底に潜むものを求めて

公開 10 日間で動員数 290 万人、興行収益 38 億円を突破した新海誠監督の長編アニメーション映画「君の名は」が、公開 12 週目に入ても依然として観客動員数は首位を走り続け、累計興収は 184 億 9000 万円に達し、11 月終わりには「もののけ姫」の 194 億円を抜き、年内に 200 億円を超えることが確実視されているという噂を聞いて、この映画の何が日本の人々、特に若者たちを惹きつけているのかが知りたくて鑑賞しました。

新海誠監督が考案した「ものがたり」は、1200 年ぶりに地球に接近したティアマト彗星の破片（隕石）が飛驒の山奥の村を直撃するという将来起こるかもしれない出来事を背景にしつつ、夢と現実を交えながら、東京に暮らす少年と飛驒の山奥で暮らす少女が時間と空間とを超えて「入れ替わる」という不思議な謎の現象、出会うべき人と出会い、つながりを求める人の姿、お互いが惹かれ合う不思議さを描くものです。

合理的・科学的な思考をすることによって「近代化」を成し遂げてきた私たちですが、多くの日本人が心の奥底には非合理的・非科学的とも言える「説明のつかない何か」を抱えており、時代が進むにつれて人間の及ばない超越的な力から自分たちを救ってくれる「救世主」を求める感情が一層強まっているところに、この映画がここまで多くの人々を動員してきた秘密であるような気がしています。

一昔前には歐米の自由主義神学者たちが「神話」として切り捨てた聖書に描かれている「ものがたり」こそが、日本人の心の奥深いところに触れるものだと思わされたひとときでした。

「声なき者の友」の輪 代表カタリスト 神田英輔

FVI の働きは皆さまからのご支援に支えられているカタリストによって担われています。

献金をもって各カタリストをご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」などとカタリスト名をご明記ください。